

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2012年10月)

発表日2012年12月10日(月)

～経常収支は黒字に復帰。先行きも黒字基調を維持する見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 大塚 崇広
TEL : 03-5221-4525

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			所得収支
					貿易収支	サービス収支	
2011	1月	5,478	12,911	3,498	3,684	▲ 186	10,452
	2月	17,008	12,473	3,718	4,865	▲ 1,147	11,072
	3月	17,386	9,485	▲ 1,282	528	▲ 1,811	11,349
	4月	4,239	5,755	▲ 6,041	▲ 4,650	▲ 1,390	12,613
	5月	5,744	3,525	▲ 7,517	▲ 6,314	▲ 1,203	11,945
	6月	5,389	9,590	▲ 1,107	35	▲ 1,142	11,670
	7月	10,537	8,237	▲ 2,263	▲ 582	▲ 1,681	11,385
	8月	4,363	6,971	▲ 4,008	▲ 2,059	▲ 1,949	11,808
	9月	16,107	10,255	▲ 1,210	227	▲ 1,438	12,250
	10月	5,339	4,703	▲ 7,409	▲ 5,363	▲ 2,046	12,717
	11月	1,261	5,123	▲ 5,920	▲ 4,047	▲ 1,873	12,193
	12月	2,657	6,991	▲ 4,271	▲ 2,441	▲ 1,829	12,367
2012	1月	▲ 4,556	1,209	▲ 7,914	▲ 7,056	▲ 858	10,476
	2月	12,026	8,757	▲ 2,421	▲ 496	▲ 1,925	11,605
	3月	13,074	4,879	▲ 4,991	▲ 3,775	▲ 1,216	10,815
	4月	3,735	3,486	▲ 7,904	▲ 5,287	▲ 2,616	12,263
	5月	3,421	4,049	▲ 6,510	▲ 4,066	▲ 2,444	11,851
	6月	4,221	7,611	▲ 3,777	▲ 1,666	▲ 2,110	12,176
	7月	6,254	3,354	▲ 7,557	▲ 4,769	▲ 2,788	11,807
	8月	4,547	7,223	▲ 4,818	▲ 2,356	▲ 2,462	12,783
	9月	5,036	▲ 1,420	▲ 12,886	▲ 9,774	▲ 3,112	12,255
	10月	3,769	4,141	▲ 7,939	▲ 5,570	▲ 2,370	12,783

(出所) 財務省「国際収支統計」

○ 経常収支(季節調整値)は黒字に復帰

10月の経常収支は原数値で3,769億円の黒字と、コンセンサス(2,356億円、レンジ:440億円~7,800億円)をやや上回る結果となった。季節調整値でみると、前月は貿易収支の赤字拡大を背景に経常赤字となったが、10月は再び黒字に復帰した。通関統計で貿易収支の内訳を確認すると、前月の貿易赤字拡大の主因は環境税導入を前に原粗油輸入が急増したこととみられ、10月はその反動が出た形だ。

貿易収支(季節調整値)の内訳を確認すると、輸入は一段の増加には歯止めがかかっているものの、輸出は悪化が続いている。通関統計で地域別の輸出(実質化と季節調整は当社試算)をみると、アメリカ向けの弱さが目立つことに加え、EU向けも引き続き悪化、中国向けも冴えない動きが続いている。輸出は牽引役不在の状態にあり、貿易収支の黒字化は依然見通せない状況にある。

○ 貿易外収支の動向: 所得収支の黒字は高水準を維持

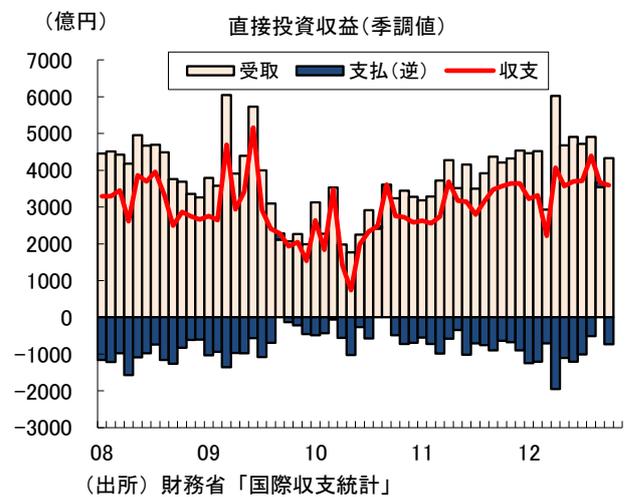
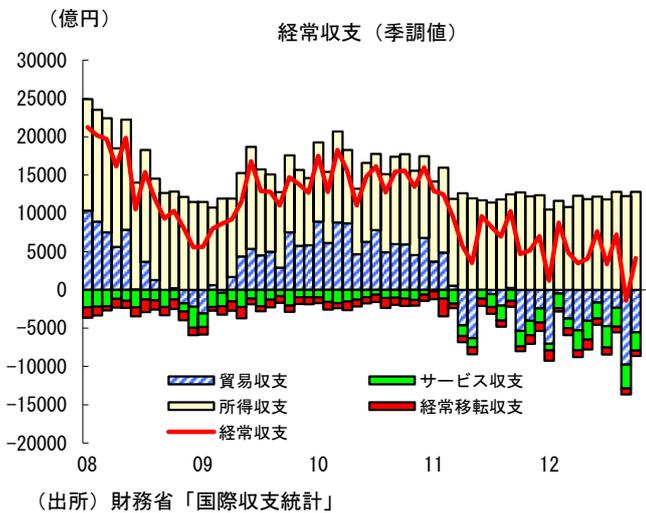
貿易外収支の内訳を季節調整値で確認すると、サービス収支は2,370億円の赤字と前月(▲3,112億円)から赤字幅が縮小したが、均してみればこのところは赤字額が増加する傾向にある。特に、振れの激しいその他サ

ービス収支が、海外経済の減速等を背景とした受取の減少により、足元赤字傾向で推移していることが目立つ。

一方、所得収支をみると、10月は12,783億円の黒字と前月（12,255億円）から黒字幅が小幅拡大し、引き続き高水準の黒字を維持した。受取の内訳をみると、これまで拡大基調を保っていた直接投資収益がやや頭打ちとなっていることが気付きだ。ただし、足元の統計からは海外経済の持ち直しの兆しが窺えることから、直接投資収益も徐々に拡大基調に戻る可能性が高いと考えている。

○ 経常収支は低水準ながらも黒字基調で推移する見込み

このように貿易赤字の縮小を主因に経常収支は黒字に復帰した。先行きも、これまでと同様に貿易収支の赤字を高水準の所得収支の黒字が補う構図が続くことで、経常収支は黒字基調を維持するであろう。貿易収支については、輸出が海外経済の回復に伴って徐々に持ち直すとみられることから、赤字幅は縮小に向かう見込みだ。ただし、海外経済の回復は緩慢なものと同様に予想されるため、赤字縮小のペースは緩やかなものにとどまろう。他方、所得収支は、豊富な対外純資産を背景に引き続き高水準の黒字を維持する可能性が高い。直接投資収益も海外経済が持ち直してくれば、再び明確な拡大基調に戻る公算が大きい。総じてみれば、経常収支は低水準ながらも黒字基調を維持する公算が大きい。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。